

10/14の審議における今後の進め方についての主な指摘

- 第一に、いつ、何をすることがはっきり書かれている必要があること。すなわち「明確性」が重要である。次に、目標は、高い目標でなければならないこと。後で成功したと言いたいのために意図的に低い目標をセットするのではなく、チャレンジングで挑戦的な目標を設定することが非常に重要である。3つ目は、実現可能であること。あくまでも実行可能性に対して十分な配慮と検討を行なった上での高い目標を設定しなければならない。最後に、その目標は常に測定可能でなければならない。
- 長期の場合には、その途中にチェックポイントとしてマイルストーンを設定しておく必要がある。
- 高い目標を設定する際、失敗もある程度は許容すること、評価の中においてもあまりに失敗に対し咎めることがないように配慮することが必要。
- リスクを取ってチャレンジする、高い目標をたてて達成する、それも前倒しで実施するスピード感が求められている。そのためにはリスクマネジメントが重要。リスクを徹底的に洗い出して文書化して共有し、一緒に課題をつぶしていくことが大事。
- 標準化活動の目指す目的を明確化する際、当該目的については、消費者・利用者ニーズ等の観点に加えて、産業の国際競争力強化の観点を考慮する必要がある。
- 標準化で採用されやすいような行動について考えてみる価値がある。日本として単独で色々やっても限界があり、賛同して手を挙げてもらおう人を作るような環境を作る検討をしてみてもどうか。
- 中間答申を踏まえた議論を行う必要がある。

以上